

第1回学校関係者評価委員会議事録

- 1 開催日時 平成29年10月23日(月) 13:30~14:30
- 2 開催場所 にいがた食育・保育専門学校えぷろん第二校舎
- 3 出席者
 - 蒲沢 百合子(新潟県菓子工業組合 専務理事)
 - 木村 靖臣(すみれ保育園 園長)
 - 佐藤 亮介(株式会社idea グラデボーレ シェフ・卒業生)
 - 神子島 真(神子島製作所 専務・卒業生)
 - 三島 茂(新潟県司厨士協会 名誉会長)
 - 山岸 貴(中央会計税理士法人 代表社員)

以上 6名(欠席は2名 いずれも委任状提出)
学校委員は理事長、学園長ほか2名出席
- 4 会議の内容
 - ア 理事長あいさつ
 - イ 学園長あいさつ
 - ウ 職業実践専門課程・学校関係者評価委員会についての説明 (教頭)
 - エ 委員・事務局紹介 (事務局)
 - オ 自己評価概要説明 (事務局)
 - ・本校の取組・・・8月末に職員アンケートを実施、33名が回答。
 - ・今後の進め方
評価委員に自己評価の結果を送付し、評価シートの記入をお願いする。
評価結果を基に課題、改善方策を確認し、次年度に改善を行う。
 - カ 質疑・意見
 - (佐藤委員) 学校を良くしていく上で、授業見学などできるか
 - (学園長) 見るだけでなく、指導もしていただいて、評価していただくことも可能。
 - (神子島委員) 昔と変わっているカリキュラムや内容などがあつたら、どのようなプロセスを経て変化したのか、確認させていただきたい。
 - (回答: 学園長) 昔とはレシピや作るものも変わってきている。変わらないことは、学校は基本を教えていること。
 - (山岸委員) 財務がしっかりしていないと教育は難しい。しっかりした体制で学生を募集するのが基本。若い学生が活躍して現場に出ていかないと業界は成り立たないので委員会で良い協力ができるようにしていきたい。
 - (蒲沢委員) 経営者の意見を聞いていると、貴重な若い学生が社会に出て活躍

していくことが大切。委員として協力していきたい。

(三島委員) 6次産業にある程度足を踏み入れていくことが必要。例えば、農家とタイアップして廃棄するキャベツをもらい刻む練習や、ソークラフトに加工して販売、など。それで他の専門学校と差別化すると良いのではないか。また、廃棄についても、日本において大きな問題となっている。捨てない体験、指導をしていく必要がある。